

2024年 ノース場ホッケ新規加入量調査速報（2）

北海道立総合研究機構稚内水産試験場調査研究部 黒川大智 電話：0162-32-7166

- ・ 魚探調査における魚群数は、過去5年で最も少ない
- ・ 加入量は、低豊度の可能性

稚内水試では、毎年10月と11月の2回、稚内ノース場海域（図1）において、試験調査船北洋丸による計量魚群探知機調査と着底トロール調査（原則6回曳網）を実施しています。本速報では、2024年11月9～14日に実施した第2回調査の結果を示し、10・11月の結果を踏まえて現時点の豊度を推定しました。

計量魚探調査およびトロール調査結果

- ・ 魚探調査で発見された魚群数は9で、過去5年で最低だった昨年と同水準の結果となりました。
- ・ それぞれの調査ライン上における魚群は、昨年とは異なり、「南側」で多く発見されました。
- ・ トロール調査で漁獲されたホッケの年齢は、1歳以上が主体でした（図3）。ホッケ漁獲量は、811海区における操業以外では数尾程度であり、ホッケ漁獲量自体が少ない結果となりました。
- ・ 0歳ホッケ（ローソクボッケ）もわずかながら漁獲されましたが、その体長は例年と比較して小さい（平均171.2mm）傾向がありました。

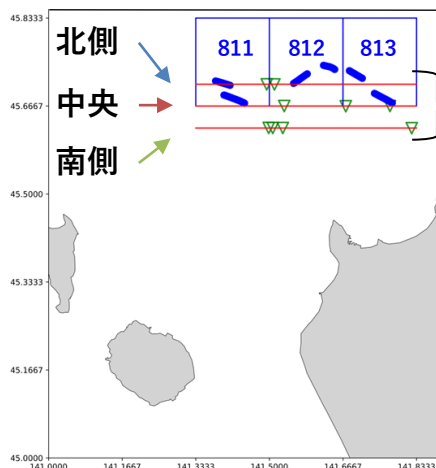


図1. 操業海域と調査ライン

— : トロール操業位置
▽ : 魚群発見位置

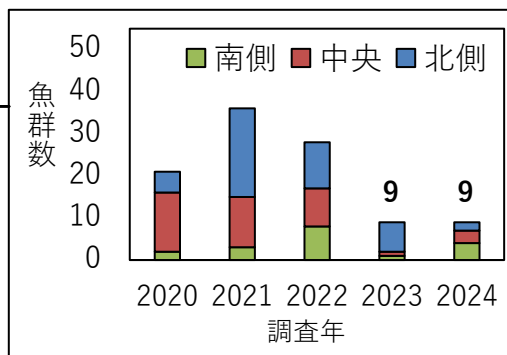


図2. 発見された魚群の合計

11月調査結果のまとめ

魚探調査における魚群数は、昨年に続いて過去5年で最も少ない結果となりました。漁獲物の年齢構成は、1歳以上が主体であり、ローソクボッケはわずかでした。漁獲されたローソクボッケの体長は171.2mmで例年よりも小さい傾向がありました。

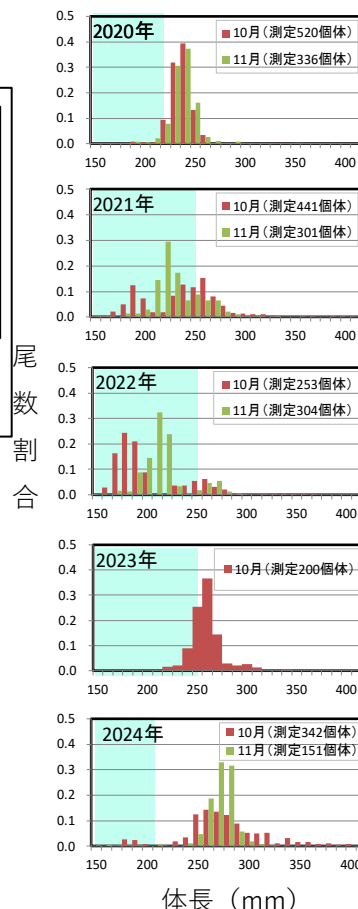


図3. 収集したホッケの体長組成
（水色部分はローソクボッケを示す）

2024年級の加入豊度

- ・魚探調査で観察された魚群数と加入尾数との関係による推定

魚探調査で観察されたホッケ魚群の数と加入尾数との間には正の相関があります(図4)。この関係から2024年級の加入尾数を推定すると、0.8億～1億尾程度となります。

- ・ローソクボッケの平均体長と加入尾数との関係による推定

トロール調査で漁獲されたローソクボッケの平均体長と加入尾数との間には負の相関が認められます(図5)。例年、2012年以降の相関関係のみを用いて加入尾数を推定していましたが、本年漁獲されたローソクボッケの体サイズから加入尾数を推定すると6億尾程度となり、魚群数による結果と矛盾します。

- ・現時点での2024年級の加入豊度

魚探調査で観察された魚群数から推定された加入尾数は、過去5年で最低の水準で、0.8～1億尾となりました。ローソクボッケの平均体長から推定された加入尾数は6億尾程度となりますが、本調査で漁獲されたローソクボッケの数が少ないことから、この関係から加入尾数を推定することは不適と考えられました。

以上の結果から、2024年級の加入豊度は、過去5年と比較して低いと推定されます。

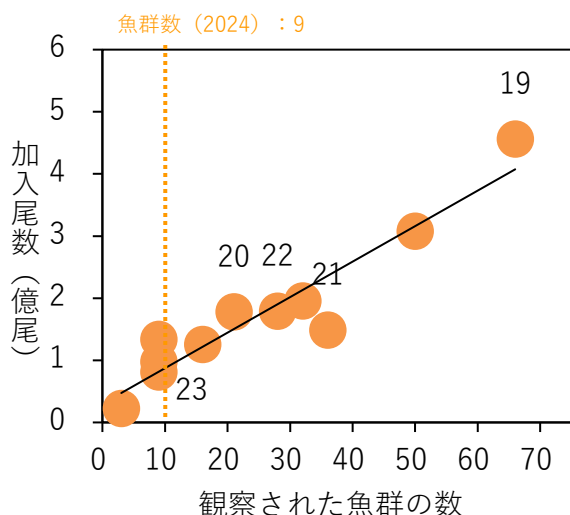


図4.観察されたホッケ魚群数 (11月) と加入尾数の推移

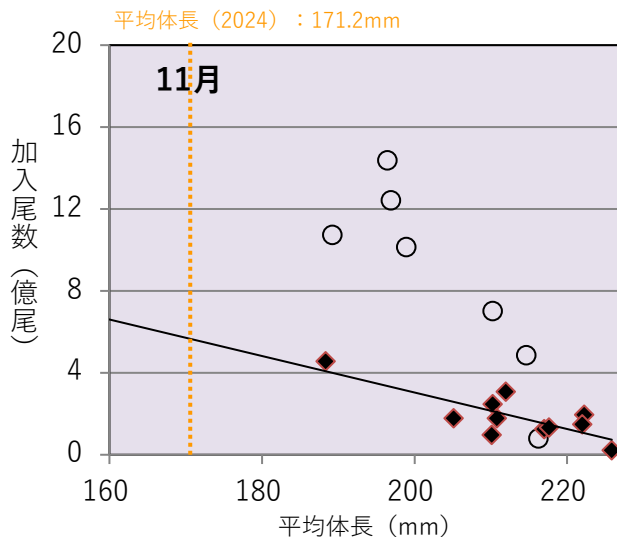


図5.ローソクボッケの平均体長と加入尾数との関係

～加入尾数について～

本速報で示した加入尾数は、豊度推定を行うにあたって算出した参考値であり、実際の加入尾数を示すものではありません。実際の加入尾数は、2024年級に関する複数の調査結果を総合して推定されます。本速報で行った推定の性質上、最新年の加入尾数は推定誤差が大きいため、本速報で示した値から大きくぶれる可能性があります。